

「ジャパンサーチを使ってみた！～教育・研究・地域情報発信の現場から～」に寄せられたご質問及びその回答（イベント中に回答したものを除く。）

#### （ジャパンサーチの利活用機能について）

1. 小規模図書館での活用方法（展示など）についてお聞きしたいです。（その他/関東）  
（回答）マイノートを使った電子展覧会の作成はいかがでしょうか。マイノート（シンプルモード、フルモード）では、ジャパンサーチの連携コンテンツと、ジャパンサーチと連携していない、自館が公開しているウェブコンテンツを織り交ぜてキュレーションすることができます。また、ワークスペース機能を使って、共同で地域に関するウェブコンテンツを作るといったイベントの開催も考えられます。

#### （ジャパンサーチ全体について）

2. 全体概要を把握したいものです。（その他/中部・北陸・東海）  
（回答）「ジャパンサーチの概要」<<https://jpsearch.go.jp/about>>を参照ください。詳細は、そこで紹介しています「3か年総括報告書～我が国が目指すデジタルアーカイブ社会の実現に向けて」（令和2年8月 デジタルアーカイブジャパン推進委員会・実務者検討委員会）の5章（pp27-34）を参照ください。  
・デジタルアーカイブジャパン推進委員会及び実務者検討委員会のページ<[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive\\_suisiniinkai/index.html](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive_suisiniinkai/index.html)> > 取りまとめ>3か年総括報告書（令和2年8月）我が国が目指すデジタルアーカイブ社会の実現に向けて
3. 現在資料館、博物館などアーカイブを担うあらゆる機関で、地域ごとのデジタルアーカイブ構築が企画・実践されていると思いますが、JAPAN SEARCH を利用してそうした地域ごとのアーカイブ化に繋げることは可能となるのでしょうか。また、JAPAN SEARCH 運営側からそうした働きかけをしていく予定はあるのでしょうか。（学生・大学院生/中国・四国）  
（回答）ジャパンサーチとの連携を旗印にして、地域のつなぎ役の創出を地方公共団体に働きかけていく動きは考えられます。都道府県の情報化担当等向けに、ジャパンサーチの概要と連携方法についてご案内した資料（ジャパンサーチの概要<<https://jpsearch.go.jp/about>>に掲載）を配布する予定です。
4. 国家事業としてのジャパンサーチと、他の公共的な検索システムとの関連性、位置付けについて。（その他/関東）  
（回答）ジャパンサーチは、我が国の各アーカイブ機関が発信・提供しているデジタルアーカイブのメタデータを集約した検索システムです。その集約に当たっては、分野・地域コミュニティにおいてメタデータを集約する「つなぎ役」を通じて個別のデジタル

アーカイブと連携しています。例えば、書籍等分野では国立国会図書館が「国立国会図書館サーチ」< <https://iss.ndl.go.jp/>>を通じて全国の図書館等のデジタルアーカイブとの連携を、文化財分野では文化庁が「文化遺産オンライン」< <https://jpsearch.go.jp/database/bunka>>を通じて全国のミュージアムとの連携を、自然史・理工学分野では国立科学博物館が「サイエンスミュージアムネット」< [https://jpsearch.go.jp/database/s\\_net](https://jpsearch.go.jp/database/s_net)>を通じて全国の自然史博物館との連携を進めています。

つまり、各アーカイブ機関のデジタルアーカイブと、その分野・地域コミュニティのつなぎ役が集約する専門的なデータベースがあるからこそ、ジャパンサーチが成り立ちます。特につなぎ役の役割は重要です。当該コミュニティにおいてメタデータの標準化を推進してくれることにより、連携コストを削減でき、活用のしやすさが向上します。

5. 1) JapanSearch の対象とする範囲と、どういう調査目的の場合に利用するのが適切なのかについて、事例を挙げて紹介してほしい。(大学・研究機関/近畿)

(回答) ジャパンサーチは、我が国の幅広い分野のデジタルアーカイブを連携対象としています。現在連携済のデジタルアーカイブについては、国立国会図書館(中川)のスライド中の一覧(3ページ)、ジャパンサーチの「統計のページ」< <https://jpsearch.go.jp/stats>>、ジャパンサーチの「連携データベース一覧」< <https://jpsearch.go.jp/database?from=0>>、検索結果画面のファセット等を参照ください。

- 2) NDLonline、NDLサーチの提供できる情報源を包含していると理解してよいのかどうかご教示ください。

(回答) 国立国会図書館(中川)のスライドの中(4ページ)で説明しておりますが、ジャパンサーチと連携しているNDLサーチの情報源はごく一部です。ジャパンサーチは、NDLサーチ経由では、デジタルコンテンツを有するデジタルアーカイブとのみ連携しています。

- 3) JapanSearch が最終的に目指すシステムは、どういうイメージで、国内における位置づけについても教えてください。

→ジャパンサーチが最終的に目指す形については、ユーザアンケートやフィードバック等も踏まえて、引き続き運営主体であるデジタルアーカイブジャパン推進委員会及び実務者検討委員会で検討し、開発・改善に取り組んでいきます。国内における位置づけについては、質問4への回答を参照ください。

- 4) 多数の方が同時にアクセスしてもネット環境的に問題ないですか？

(回答) ワークスペースの同時アクセス上限人数については、ネット環境の状況により

異なるため具体的な人数はお答えできませんが、実際に学校の授業等にご利用いただいているので、1クラス程度での利用であれば問題ないと思われます。

5) どの程度の頻度で管理点検（使用できない期間や時間帯）されますか？

（回答）ジャパンサーチ本体及びマイノート・ワークスペース・プロジェクト機能については、定期的なサービス停止はありませんが、不定期にリリース等のためサービスを停止する場合があります（正式版公開後には、サービスを停止した実績はありません）。なお、サービスを停止する場合は、1週間前には告知いたします。

### （デジタルアーカイブ全般）

6. デジタルアーカイブを活用した効果の評価手法について（ベンダー/関東）

（回答）実務者検討委員会では、アーカイブ機関が、自身のデジタルアーカイブの取組について、組織的な取組からシステム面、利活用促進ための取組等も含めて、バランスよく自己点検・評価するためのツールとして「デジタルアーカイブアセスメントツール」を作成し公開していますので、こちらを参照ください。

・ デジタルアーカイブジャパン推進委員会及び実務者検討委員会のページ<[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive\\_suisiniinkai/index.html](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/digitalarchive_suisiniinkai/index.html)> > 取りまとめ>（抜粋）デジタルアーカイブアセスメントツール（改定版）